

授業科目名	刑法総論 I	選択	開講年次	2	単位数	2
科目区分	専門科目					
サブタイトル	犯罪論の前半部分		担当者	百合草 浩治		
講義概要	<p>【概要】 犯罪の一般的成立要件について概説するとともに、重要な基本判例について講義する。</p> <p>【到達目標】 犯罪の一般的成立要件についての議論状況に関する基本的な知識を理解するとともに、重要な基本判例について批判的に考察できるようになること。</p>					
履修条件	特になし。ただし、1回目の講義には 必ず 出席すること。					
教科書・参考書	<p>【教科書】 伊東研祐『刑法講義 総論』(2010年、日本評論社)</p> <p>【参考書】 伊東研祐『刑法総論』(2008年、新世社)</p> <p>高橋則夫・伊東研祐・井田良・杉田宗久『刑法総論〔第2版〕』(2007年、日本評論社)</p>					
授業回数	内容					
1	イントロダクション、犯罪論を学習することの意義					
2	犯罪論体系および犯罪の一般的成立要件についての概説					
3	因果関係論①					
4	因果関係論②					
5	因果関係論③					
6	不作為犯論①					
7	不作為犯論②					
8	不作為犯論③					
9	故意と錯誤①					
10	故意と錯誤②					
11	故意と錯誤③					
12	故意と錯誤④					
13	過失犯論①					
14	過失犯論②					
15	まとめ					
評価方法	平常点(出席点・小テスト等の合計)					
評価基準	<p>原則として、80パーセント以上の回に出席していることを単位認定の前提とする。</p> <p>上記授業内容について、これをよく理解し、適切に表現できた者には「A」を与える。授業内容についての理解度や表現内容に十分ではない点がある者は、その程度に応じて「B」または「C」とし、授業内容についての理解自体が最低限度の水準に達していない者は、その程度に応じて「D」または「E」とする。</p>					
その他	<p>教科書、配布資料、最新の六法を必ず持参すること。なお、持参しない者は、「出席」とは見做さない。</p> <p>授業は、講義と質疑応答を組合せた形で行う。</p> <p>【受講上の注意】 遅刻は原則として認めない。私語・携帯電話の使用は禁止する。 正当な理由のない、途中退室後の再入室は認めない。 その他授業を真摯に受けようとする意思の認められない学生については、退室を命じる場合がある。</p>					